

には局地的に発生した低気圧があり、東西にはしるいわゆる宇都宮前線がみられる。この前線は新潟方面から北西風として前橋付近に出て東京方面にぬける西風と、白河方面から那須おろしとなって吹く北西風との間に発生したものである。またこの時刻の館野の垂直分布図(第7図)をみると30ノットをこえる下層ジェットがみられる。

25日の宇都宮の気象紙を第9図に掲げたが、突風は10時56分に起っている。突風時の風向の変化をみると西から北西に変化し、以後北西風が持続していることから宇都宮付近の低気圧の東進につれて、南下傾向だった前線は11時ごろ宇都宮を通過し、漸移層が地上において突風が起ったものとみられる。

### 5. むすび

調査期間内に発生した風害は関東地方全域におよび、その規模はかなり大きかった。このときの各地のダインズ風圧計の気象紙を比較すると、宇都宮の記録が他のものと異っていることが注意をひく。宇都宮の風は局地的な地形効果で発生した低気圧や前線によるものである。

また風害の多発した25日の日平均風速をみると、熊谷10.4m/s、前橋9.8m/s、東京7.5m/s、水戸6.8m/s、宇都宮4.3m/sで宇都宮の風速は意外に弱い。しかも宇都宮地方においては、建物の被害は40棟をこえ、電信、

電話の被害も60回線にのぼった。これは当地方の風がいわゆる突風性であったことを示している。

最後にこの調査に対しご指導下さった正務調査課長、船津、瀬下各調査官および資料を提供下さった各気象官署の皆様深く感謝を致します。

### 参考文献

- 1) 大井正一 (1951): 冬の天気の解析的研究, 研究時報, **3**, 389~400.
- 2) 渡辺正次・荒井一雄・佐野靖 (1951): 寒冷前線通過の際の気温の急変について, 研究時報, **3**, 特別号, 140~145.
- 3) 吉野正敏, 小気候, 地人書館.
- 4) 篠原武次 (1949): 冬期宇都宮付近にあらわれる局地前線と栃木県の気候について, 気象集誌, **27**, **4**, 19~22.
- 5) 東京管区気象台: 東京管区異常気象報告, **4**, **1**, 96~103.
- 6) 宇都宮地方気象台: 栃木県の気候.
- 7) 藤井辰男 (1960): 不安定線発達の際の気象状態気象研究ノート, **11**, 142~148.
- 8) 香原信義 (1960): 九州およびその近海における寒冷前線前面の不安定線について, 気象研究ノート, **11**, 149~165.
- 9) 今井一郎 (1960): 中小気象現象とその解析, 気象研究ノート, **11**, 99~121.

## 気象界消息

### 1. 島山長官, ヨーロッパへ

気象庁長官就任早々、島山久尚博士はジュネーブで開かれたWMO総会に出席のため、3月29日離日、会議後中部ヨーロッパ各地の気象台を視察の上、5月12日午後帰国された。

### 2. 末広氏, バリ島へ

UNESCOのアグン火山調査団の一員として、気象研究所、地震研究部の末広重二技官は5月29日から1ヶ月の予定でバリ島に向け出発した。

### 3. リグビー氏, 来日

アメリカの気象天体物理文献抄 (Meteorological & Geostrophical Abstract) の編集委員 M. Rigby 氏が6月1日から12日まで気候関係資料収集のため来日。

### 4. ベデル氏の来日

ICAO極東局 (バンコック) 職員 B. Bedel 氏は航空気象業務視察のため、6月17日に来日、22日、ソウルに向け離日した。

### 5. 大雨と洪水

台湾はこのところ干ばつになやませれ、香港も同じく日本から水を買う程のひでり続きである。日本の梅雨が異常に早く始まったので、大気の水分子が北緯10度~20度から30度より北へ移動してしまつたためかと疑いたくな

る。

香港では台風5号の影響で7月2日から大雨となったが、これは全く7カ月ぶりの雨らしい雨で、文字どおり旱天の慈雨となった。

### 6. 東パキスタンの洪水

東パキスタン、チャタゴン地方は5月29日に襲ったサイクロンの豪雨から、モンスーンのもたらす長雨に、ひどく痛めつけられている。洪水のため1万人以上の住民が家を失ったというが、死者はわずかに1名とのこと。

### 7. 台風4号, 南鮮へ

おとなりの韓国では、家屋の被害、3,500戸、死者30人、負傷47人という痛手をうけた。これは6月30日半島南端をかすめて去った台風4号による被害である。パキスタンとの死者の差は人口密度の違い (パキスタン 98人/1km<sup>2</sup>: 韓国 250人/1km<sup>2</sup>)

### 8. 北九州, 集中豪雨

6月29日から九州北西部一帯に集中豪雨があり、崖ぐずれ、洪水の被害が各地から報じられた。

### 9. 東アフリカの地震

長い間、地震の不安のない国と考えられていた、東アフリカは、最近のUNESCO調査団によって年2,000~3,000回の地震を記録していることが明らかとなった。